岐阜県文化財保護センター

いずな ぎふの埋蔵文化財

57
2010.3.1

特集
「中屋敷遺跡・中屋敷古墳」
今年度の調査の報告

考古学教室18
「群をなす方形周溝墓」
～荒尾南遺跡の調査から～

センター情報ボックス
・出前授業・職場体験
・現地説明会・発掘速報展など

岐阜市中屋敷遺跡出土の近世陶磁器

今年度の調査の報告

凡例
- ●事業マーク
  - 発掘　今年度遺跡発掘調査実施
  - 整理　出土品の整理作業実施
- ●時代マーク
  - 縄文　縄文時代
  - 弥生　弥生時代
  - 古墳　古墳時代
  - 古代　古代
  - 中世　中世
  - 近世　近世

発掘

1 荒尾南遺跡（大垣市荒尾町・桧町）

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

荒尾南遺跡は、大垣市西部の低地に位置し、東西約250m、南北約750mの広大な範囲に及びます。平成18年度から昨年度までの発掘調査では、120基を超える方形周溝墓や約210軒以上の竪穴住居跡を確認しました。今年度の約11,000㎡の調査は、これまでの調査内容をさらに充実させるものになりました。遺跡中央部では、弥生時代中期には墓域として使われていた場所が、弥生時代後期には居住域へと変遷していく様子を確認しました。遺跡南部では、自然流路をはさみ、東側には弥生時代後期に造られた方形周溝墓が広がっていることが分かってきました。また、住居内からのベンガラの出土、大溝や自然流路からの様々な木製品の出土、遺跡東部低地部での水田域の広がりから、様々な生産活動が行われていた大規模な遺跡であったことが明らかになりました。

発掘現場西側の様子

事業者：国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所
事業名：平成２１年度東海環状自動車道（養老ＪＣＴ～大垣西ＩＣ）に伴う埋蔵文化財発掘調査

2 東町３・４号古窯跡

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

東町３・４号古窯跡は多治見市と土岐市との境をなす丘陵上の南斜面に位置し、現地は陶土の採掘場になっていました。今年度に実施した250㎡の発掘調査では、15世紀中頃（室町時代）の白瓷系陶器（山茶碗、小坏、小皿、片口碗、オロシ碗、陶錘など）の不良品が大量に出土しました。これらは大量に作られ一般に出回った製品ですが、やがて縮小・簡素化して15世紀の終わり頃に消滅します。当遺跡では山茶碗に高台のあるものと消失したものが出土していますので、生産性追求のため、簡素化してきた過程を知ることができます。

遺構は発見されませんでしたが、焼台や蓋、重ね焼きした製品が自然釉で熔着してしまった不良品などの発見で、この遺跡の上方で窯の操業が行われていたことが確認できました。

発掘作業風景

事業者：県土整備部多治見土木事務所
事業名：平成21年度公共住宅市街地基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

3-1 岩田西遺跡・岩田東Ａ遺跡（岐阜市岩田西）

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

岩田西遺跡は、弥生時代から安土・桃山時代までを中心とする遺跡です。今年度の調査では、弥生時代に低湿地型の水田耕作に用いられたと考えられる溝状遺構や、室町時代から安土・桃山時代に利用されたと考えられる畦畔とそれに伴う水田区画を発見しました。出土遺物には、須恵器・土師器などの他に銅製の錘や鈴などが出土しました。

岩田東Ａ遺跡は、弥生時代から江戸時代までの複合遺跡です。弥生時代の方形周溝墓２基や、室町時代の居住域に伴うと考えられる布堀の区画溝、柱穴列などを検出しました。河岸段丘上に展開した集落形態をうかがい知ることができそうです。

発掘現場全景

事業者：国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所
事業名：平成21年度国道156号岐阜東バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査

4 下切遺跡（下呂市金山町中切）

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

下切遺跡は、飛騨川右岸の河岸段丘上に立地します。平成20年度には2,300㎡を今年度は870㎡を調査しました。今年度の調査では、近世の井戸跡１基、近世の鍛冶遺構２基、近世の掘立柱建物跡２棟、中近世の竪穴状遺構２基、土坑390基など総数約400基の遺構を確認しました。調査区の北東約150mの位置に、飛騨山中で伐り出された御用木を止めて一本一本改めた下原中綱場跡があります。近世の遺構及び近世陶磁器が多数出土していることから、中綱場に関わる人々の集落と考えています。

井戸跡の掘削風景

事業者：国土交通省中部地方整備局高山国道事務所
事業名：平成21年度中部縦貫自動車道、高山国府ＢＰ及び下原改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

整理

1 荒尾南遺跡整理

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

今年度は主に平成18・19年度に遺物整理が大方終了したＡ地区報告書刊行に向けての資料整理や原稿執筆、さらには平成20年度発掘調査２地点の遺物整理を行っています。Ａ地区の作業はさておき、２地点の遺物整理からはさらに新たな資料を確認できました。注目すべきは縄文時代晩期～弥生時代前期の土器で、荒尾南遺跡の開始期に関わる資料にあたります。とくに弥生時代前期の土器は岐阜県での出土例は少なく、荒尾南遺跡出現を解く鍵になると考えられます。

事業者：国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所
事業名：平成２１年度東海環状自動車道（養老ＪＣＴ～大垣西ＩＣ）に伴う埋蔵文化財発掘調査

3-2 中屋敷遺跡・中屋敷古墳整理

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

平成20年度に発掘調査を実施した898㎡を対象として、出土遺物の実測、トレース、復元等作業を行い、報告書の原稿を執筆しました。中屋敷遺跡は、古墳時代から江戸時代までの複合遺跡で、古墳時代後期から終末期の古墳や竪穴住居跡、室町時代から江戸時代までの掘立柱建物跡、溝などを検出しました。中屋敷古墳は墳丘規模15m以上で、横穴式石室を有する古墳です。

事業者：国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所
事業名：平成21年度国道156号岐阜東バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査

5 広畑野口遺跡整理

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

平成19・20年度に発掘調査、平成19～21年度に整理作業を行い、平成21年度３月に報告書を刊行します。各務原台地上にある山田寺跡の300m南に本調査区があります。主な遺構は規則的に配置された掘立柱建物跡８棟、建物跡を囲む柵跡３列、７世紀後葉～８世紀初頭の須恵器が大量に出土した廃棄土坑です。建物跡は７世紀後葉から８世紀中葉の官衙跡であると考えています。

事業者：都市建築部岐阜土木事務所
事業名：平成21年度公共緊急地方道路整備事業（（都）岐阜鵜沼線）に伴う埋蔵文化財発掘調査

6-1 三枝城跡整理

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

三枝城跡は曲輪や堀切等をもつ中世山城跡です。今年度は平成20年度に発掘調査を行った6,110㎡のうち、4,110㎡分の整理作業を行い、須恵器の托や仏鉢、三足火舎などの仏教系の遺物や、北陸系の弥生土器など中世以前の珍しい遺物の存在を確認しました。ここが城の機能を持つ以前から何らかの活動の場であったと考えられます。

事業者：国土交通省中部地方整備局高山国道事務所
事業名：平成21年度中部縦貫自動車、高山国府ＢＰ及び下原改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

6-2 野内遺跡Ｃ地区整理

縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

平成17・18年度に発掘調査を行い、今年度は木器や土器などの整理作業を行いました。特に注目される遺物として、平安時代頃の墨書土器を挙げることができます。「海」「仁」「逢」など、複数の土器に繰り返し現われる文字もみられます。文字を記すのに使用した硯の大部分は食器などを再利用した「転用硯」であることも明らかとなりました。

事業者：国土交通省中部地方整備局高山国道事務所
事業名：平成21年度中部縦貫自動車道、高山国府ＢＰ及び下原改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

特集

「中屋敷遺跡・中屋敷古墳」

中屋敷遺跡・中屋敷古墳は岐阜市岩田西の長良川左岸に位置し、国道156号岐阜東バイパス建設事業に伴い、平成20年度に発掘調査を行いました。そして、古墳時代後期から終末期の古墳や竪穴住居跡、室町時代から江戸時代までの掘立柱建物跡や溝、地下式坑などを発見し、約1万点の遺物が出土しました。発掘調査の結果、古来からモノや文化の交流が長良川を介して活発に行われていたことが判明しました。

横穴式石室をもつ古墳

この古墳は、今回の発見により「中屋敷古墳」と名付けられました。古墳の中央付近から側面にむけて、外部に通じる出入り口のある石室（横穴式石室）があります。

横穴式石室は、遺骸を安置する玄室と、外部から玄室に通じる羨道とに分かれます。玄室は長さ5.48m、最大幅2.08mで、その平面形は中央付近が最も広がる胴張り形でした。右の写真の斜めに倒れている大きな石は、玄室と羨道とを区別した玄門立柱と想定されます。なお、羨道は残っていませんでした。

中屋敷古墳▶

室町時代から江戸時代初期の地下式坑

地下式坑とは、地表から竪坑を経て地下室に至る穴で、貯蔵施設や葬送施設、宗教関連施設などの性格があるとされています。右の写真は２つの地下式坑が重複している様子で、手前のものは、長さ3.83m、深さ2.04mの規模です。

地下式坑は関東地方を中心に多く分布しており、東海地方では主要河川沿いの遺跡で数例発見されています。関東地方を中心とする東国文化の影響を受けて構築されたのでしょうか。

地下式坑▶

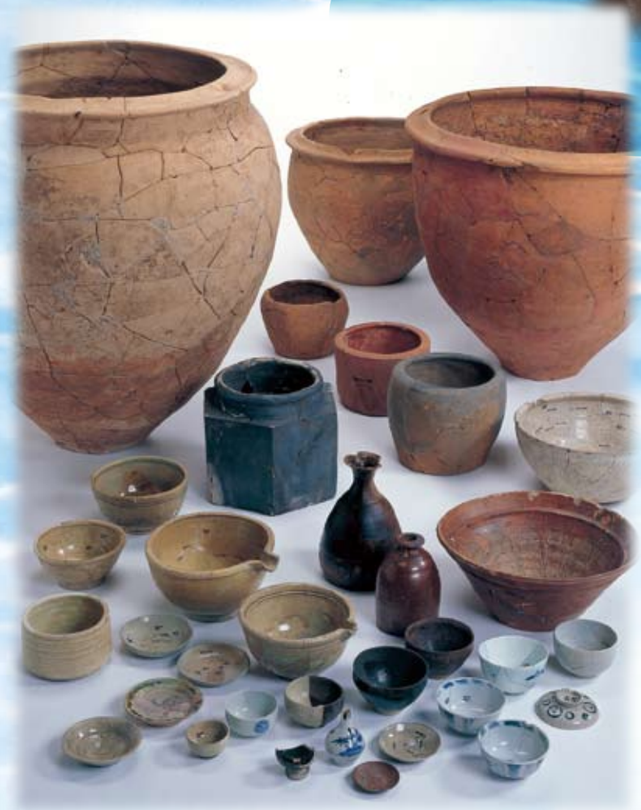
◀古墳時代終末期の遺物

古代瓦と須恵器

中屋敷古墳や竪穴住居跡からは、左の写真のように、古代瓦と須恵器がまとまって出土しました。そして、須恵器の年代から、古代瓦は古墳時代終末期（飛鳥時代）頃の瓦であることがわかりました。

古代瓦は主に寺院に葺かれるために生産され、岐阜県では、古墳時代終末期に初めて寺院が創建されました。今回出土した古代瓦は、このような初期の寺院に使用するために生産されたと思われます。

しかし、中屋敷遺跡周辺には、これまでその頃の寺院や窯跡は発見されておらず、この遺跡から古代瓦が出土した理由について、今後の研究が期待されます。



◀江戸時代の遺物

全国各地から運ばれた焼き物

室町時代から江戸時代にかけて、中屋敷遺跡には建物や区画施設をもつ集落がありました。そこには、全国各地から多くの焼き物が運ばれてきました。

左の写真の奥にある３つの大きな甕は、愛知県常滑市周辺で生産された常滑焼きです。左端にある最も大きな甕は、高さ83.6㎝、直径76.6㎝もあります。手前にある碗類や皿類は、岐阜県多治見市周辺で生産された美濃焼きや、愛知県瀬戸市周辺で生産された瀬戸焼きが多く、佐賀県や長崎県で生産された肥前焼きも数点あります。

これらの遺物は、江戸時代に長良川の水運を通して、モノの流通が活発に行われたことを物語っています。